

中心商店街の入口に高齢者、障がい者、地域住民のための「まちのえき」を整備
もう一方の入口には親子交流施設を設置し、中心商店街の回遊性を高める

中市商店街振興組合

(NPO法人山口せわやきネットワーク)

機関名	中市商店街振興組合 (NPO法人山口せわやきネットワーク)			
所在地	山口市中市町3-3 (山口市中市町3-14)			
電話番号	083-925-5011 (083-934-0811)			
地域概要	(1)管内人口	143千人	(2)管内商店街数	7商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	55商店
	(3)空店舗率	10%	(4)大型店空き店舗数	1店
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. <u>広域型商店街</u> 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業 (高齢者等交流施設)

・市民が、高齢者、障がい者等と交流できるサロンの設置・運営

総事業費

4,974千円

【事業実施内容】

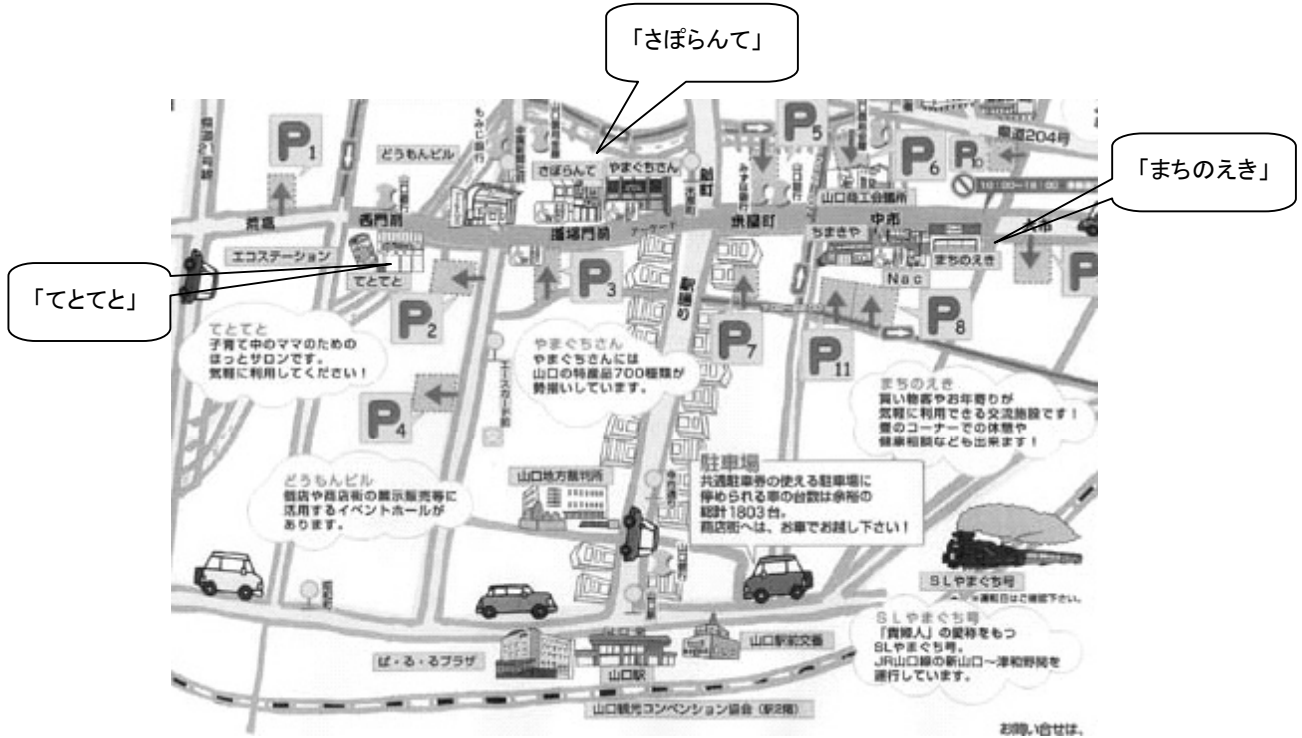
1. 背景

中市商店街は、JR 山口駅の北方約 500mの米屋町商店街の東側に隣接し、街路の延長は直線で 210m・幅員 7.5mであり、全蓋アーケードならびにカラー舗装を設置し、山口県の県都山口市の中心商店街に位置し、7つの商店街内 (中市、大市、米屋町、道場門前、西門前、新町、駅通り) の中核的な商店街としての役割を担っている。当商店街は、アルビ (大型スーパー) と、ちまきや (百貨店) との協調により、商店街としての機能を維持しており、地域密着型と広域商圈型との 2つの相反する概念を融合させるようなイベントや売出しなどを実施して活性化に努めてきたが、アルビが 5年前に倒産した他、街区には空き店舗が目立つようになり対応策が求められていた。来街者は高齢化しているが、一方で山口大学、山口県立大学、山口芸術短期大学があり、若者も回遊している。

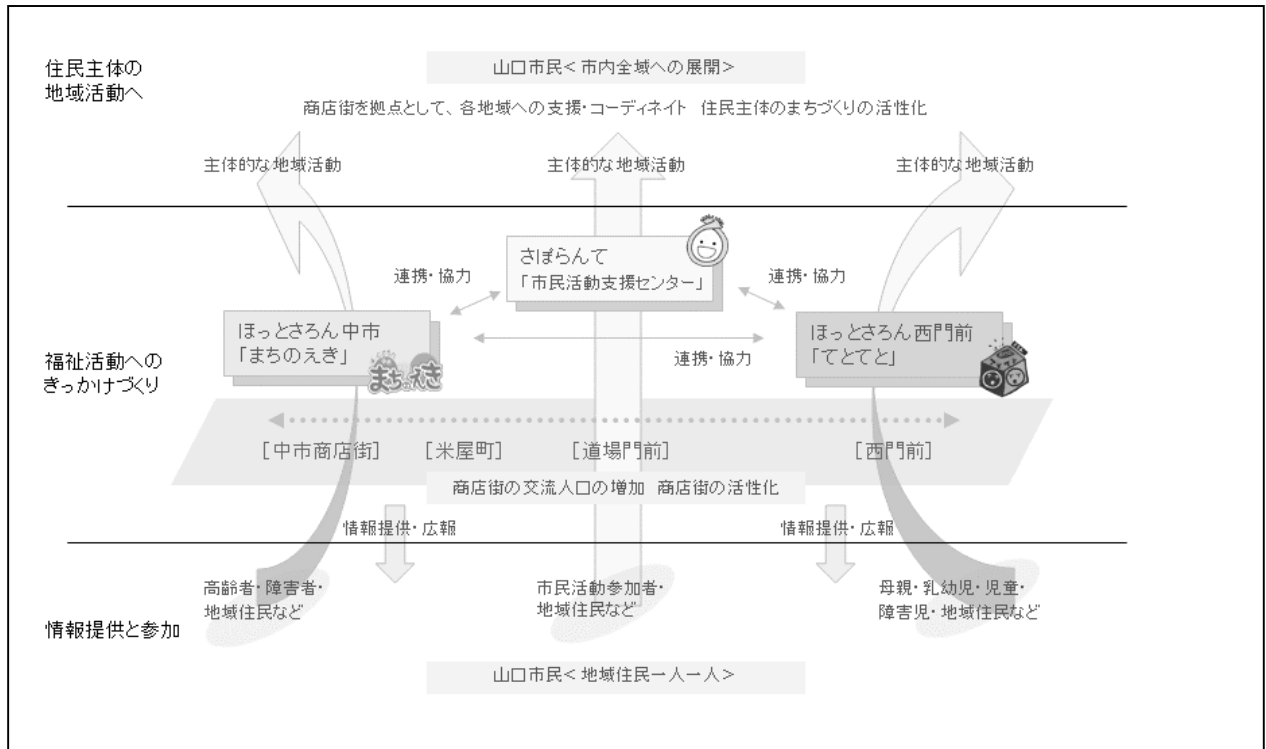
このような状況の下、「福祉のまちづくりから福祉でまちづくり」をテーマにした山口モデルの提案に基づき、商店街を拠点として地域への支援・コーディネート、住民主体の街づくりを図ることを目的に、中市商店街のアーケードの東の入り口付近に、高齢者、障がい者、地域住民等が休憩・交流できる「まちのえき」を設置することとした。また、西の入り口付近の西門前商店街 (山口市本町商店街振興組合) では、別事業として母親、乳幼児、児童、障がい児、地域住民のためのほっとさろん「てとてと」を設置することとした。(317 ページ参照。)

中心商店街の東西の入口付近にコミュニティ施設を設置し、さらに、中ほどに位置する市民活動支援センター「さぼらんて」と連携を図り、全体の来街者数の増加と回遊性を高めることを狙いとした。

各施設の位置関係並びに山口モデル提案図は次のとおりである。



「まちのえき」の位置（山口商工会議所 HP より加筆）



「福祉のまちづくりから福祉でまちづくりへ」山口モデル提案図（「てとてと」HP より）

2. 事業内容

本事業では、街なかに賑わいを呼び込む拠点として商店街にコミュニティ施設を整備し、消費者の中でも特に高齢者が集う憩いの場として活用することを目的とした次の事業を実施し、気軽に休憩・交流できるサロンを運営することとした。

(注)『山口市市民活動支援センター さぼらんて』は、山口市が設置し、市民団体が運営する機関であり、情報・交流、ミニギャラリー、インターネット体験、相談などの支援活動を行っている。

(1) 交流サロン事業

福祉情報の収集、提供並びに交流を行った。

福祉に関する情報を必要とする市民に提供する研修・講習を開催（月2回程度）。

人と人とのつながりを大切にし、誰もが生徒となり誰もが先生となれる「講座」を開催。

- ・開館時間：10:00～18:00
- ・休館日：水曜日、お盆、年末年始

(2) タウンモビリティ事業

高齢者や障がいのある方に買い物や移動を楽しんでいただくために、電動カートや車いすの貸し出しサービスを行った。

電動カート……………3台

車いす……………4台

- ・時間帯：10:00～18:00（原則として前日までに要予約）
- ・貸出時間：2時間程度

(3) 福祉住環境コーディネーター事業

高齢者や障がいのある方の住宅改修の事例や福祉用具等の情報の提供や相談を受け付ける。

（週1回程度）



「まちのえき」正面



交流サロン事業



タウンモビリティ事業



福祉住環境コーディネーター事業

(4) まちの楽校事業

創作活動やさまざまな体験をとおして子どもたちが高齢者や障がいのある方との世代間交流を目指した。(月1回程度)



まちの楽校事業

＜平成15年度＞ ほっとサロン中市「まちのえき」月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
営業日(日)	9	27	26	26	25	26	26	26	24	24	25	26	290	
入館者数	771	1,662	1,326	1,522	1,365	1,310	1,531	1,192	780	712	945	965	14,081	
(1日当たり)	(85)	(61)	(51)	(58)	(54)	(50)	(58)	(45)	(32)	(29)	(37)	(37)	(48)	
交流サロン	講座	0	0	0	0	13	10	11	13	14	10	17	30	118
	福祉相談	0	2	2	0	0	0	0	6	6	11	8	3	38
	研修(イベント含む)	0	127	38	134	13	0	10	52	8	0	0	7	389
まちの保健室	214	395	337	308	326	374	402	282	238	200	266	288	3,630	
(1日当たり)	(23)	(14)	(12)	(11)	(13)	(14)	(15)	(10)	(9)	(8)	(10)	(11)	(12)	
まちの楽校	0	42	72	40	40	47	19	11	10	19	13	6	319	
福祉住環境・福祉用具相談	0	5	1	1	1	1	0	1	2	0	2	0	14	
タウンモビリティ	0	43	43	42	40	27	48	31	21	23	19	18	355	
													(1日1~2回)	

【 効 果 】

1. 来街者の行動

本事業によって来街者の商店街の利用方法に変化が見られ、商店街に来る頻度の増加や商店街に来る目的の変化が見られた。(※事業評価アンケート報告書より)

2. 近隣個店への波及

約4割の店主がコミュニティ施設による商店街の変化を感じており、「高齢者や障がいのある方を多く見るようになった」や「老人がイキイキしてきた」、「いろいろなイベントや交流を通じて手伝ってもらえるようになった」、「空き店舗が減って街がにぎやかになった」などの変化を感じている。(※事業評価アンケート報告書より)



歌体操

【課題・反省点】

1. 事業費の確保

補助期間終了後も事業を継続していくために自主財源等の検討を行う。

2. NPO法人と商店街との連携

事業評価アンケート報告書からもわかるように商店主のコミュニティ施設に対する期待は高い。しかし、コミュニティ施設を運営するNPO法人と商店街関係者の相互理解がまだまだできていない点が課題である。NPO法人と商店街が連携する上で、コミュニティ施設で「できること」と「できないこと」の整理が必要である。



講座

3. PR

事業評価アンケート報告書を見てみると認知度は5割程度であるが、事業内容を理解している方はまだまだ少ない。広報活動の見直しが必要である。

【事業の実施ポイント】

1. 本事業を効果的に実施するためには、商店街関係者の理解と地域の方の理解が不可欠である。
2. 単発的な実施ではなく、事業を継続していくことが重要であり、そのためには長期的な事業展開のためのビジョンが必要だと考える。

【関連URL】

ほっとさろん中市「まちのえき」 <http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/>

ほっとさろん西門前「てとてと」 <http://www.teto2.jp/>

山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 <http://2style.jp/saporant/>

※事業評価アンケート

商店街活性化のために、コミュニティ施設を通じて商店街と市民との連携の可能性を探るため、商店街利用者と商店街関係者を対象としてアンケート調査を実施したものを。